

京都探訪 京都市鴨川 (2013, 8, 23)

報告する人 ホームページ委員 村内ひろ子

探訪した人 岩城委員 (宇治市) 辻委員 (宇治市) 藤井委員 (京都市北区)
村内委員 (京都市中京区) (委員順不同) 小松行政相談官 (評価事務所)

目的 最近の気象予報士が「今までに経験をしたことのない集中豪雨の発生のため、大きな被害になり」と報道がされているので、
「京都市内の鴨川は、集中豪雨・ゲリラ豪雨に耐えられるのか」？
「鴨川の中州堆積が大きな水害とならないか」？
「鴨川の河川治水計画」

探訪先 1 京都府京都土木事務所河川砂防課
2 鴨川北山大橋から上賀茂橋約 500mの河川敷を
歩いて鴨川を探索



探訪報告 土木事務所で説明を受けたこと

(1) 鴨川の歴史を学びました

① 794 年桓武天皇が長岡京から京都に都を移し、神事を桂川から鴨川で行うようになり、844 年に神聖な川として綺麗に保つようと命令が出された。

② 人々の暮らしに密接なかかわりを持ち、生活用水や灌漑用水として、暮らしを支えてきました。

茶の湯のなどの水文化、豆腐や湯葉は京都の食文化として現在まで受け継がれ、また、夏の風物詩として鴨川で涼む習慣は平安時代からあったと言われているそうです。

③ 洪水氾濫を繰り返した鴨川は、1668 年京都所司代板倉内膳正重矩が鴨川の川辺を整備し、これより賀茂川の流れが、今のよう^{いたくらないぜんのかみしげのり}にほぼ直線化になったそうです。

(2) 治水計画

① 1935 年京都のまちは鴨川の氾濫で大きな水害に見舞われ、死者 12 人、浸水した家屋は 2 万 4 千棟以上となり、鴨川に懸っていた橋はほとんどが流される被害となりました。



四条大橋付近のはん濫状況
出典:昭和10年6月29日水害写真(京都府)



三条大橋の流出状況
出典:昭和10年6月29日水害写真(京都府)

- ② 水害から川底を掘り下げ、堤防の整備の改修工事を 1936 年から 1947 年まで行いました。
- ③ 改修後、近年では洪水の氾濫による水害に見舞われていないそうです。

(3) 親しまれる水辺

- ① 春には「^{なからぎ}半木の^{みち}道」の紅しだれ桜、夏には「^{のうりようゆか}納涼床」、紅葉、冬のユリカモメなど、季節を感じながら、水辺を楽しむことができます。
- ② 水辺環境を守る運動が、「市民による鴨川美化活動」として、子供から学生、老若男女が清掃をして、訪れる人の心を和ませているようです。

(4) 最近の気象状況を考えて

- ① 洪水氾濫から安全に避難できるように、あらかじめ避難経路や避難場所の確認をして、日ごろから災害に備えておくことが重要であるとのこと。
- ② 行政の作成した「浸水想定区域図」や「防災マップ」も確認しておくこと。
- ③ ホームページなどで確認出来るとのことでした

京都府建設交通部河川課と京都市消防局



北山大橋から上賀茂橋を探訪した状況

- (1) 中州には雑草が茂っていましたが、中州は動植物の生態に配慮しながら、秋以降に整備されるとのこと。
- (2) 整備された河川敷（回廊）を散歩、ジョギングをしている人達に逢いました。
- (3) 清掃や草刈りをしている人達もおられました。
- (4) 探訪をしながら散策をし、今回の鴨川探訪はいろいろと勉強しました。



報告の終りに

京の山紫水明の水（鴨川）を守り、後世まで大切に残したい風物詩や、鴨川の歴史を、先の世代につなぐことの責任を痛感しました。

又、京都生まれの京都市育ちで現在も中京区で生活をしている私は、日常生活の中で、鴨川を愛していきたいと思います。

(＊ ひとり言メモ)

日本史を遡り、都が京に遷都されてから
鴨川を何人、歴史に名を刻んだ人が、
往来したのかと考えると楽しいですね。